

# 放送人の会

No.63

2013.11.22

〒102-0094 千代田区紀尾井町1-1 千代田放送会館 3階 Tel.&fax03-3221-0019 Mail [info@hosojin.com](mailto:info@hosojin.com)

発行 一般社団法人・放送人の会 会長 今野 勉

編集担当 伊藤雅浩 (広報委員長・編集長)、鈴木典之、前川英樹 (HP担当)、松尾羊一 事務局 佐藤真美子、須斎恵美子

## 日韓中テレビ制作者フォーラム

### 来年は日本開催です！

会長 今野 勉

会報の本号紙面は、日韓中テレビ制作者フォーラム無錫大会に関する記事で埋められています。私は、来年の日韓中テレビ制作者フォーラムについて、二、三お話をしようと思います。

来年の開催国は日本です。開催地等は現在交渉中なので公表できませんが、放送人の会が一般社団法人になってはじめての日本開催ですので、それに伴う、これまでと違った取り組みが必要になってきます。その点についての問題意識を今から会員皆さんと共有しておきたいと思っています。

#### 韓・中と日本の主催団体の違い

フォーラムに参加するわが日本・放送人の会の幹事(ことしから理事)は、韓・中の幹事たちから半分敬意と半分ヤムをこめて、「白髪軍団」と呼ばれたりします。たしかに日本の放送人の会は制作者のOBが中心となって結成されたのですからその通りです。

では、韓・中の開催団体はなぜ現役世代が中心なのでしょう。韓国の主催団体は、韓国・放送人の会と韓国PD連合会です。韓国・放送人の会

会は、日本と同じくOBが中心です。ただし、実際にフォーラムの活動はしていません。活動の中心はPD連合会、すなわち韓国の全テレビ局の制作者の団体です。韓国ではテレビ局で働くすべての制作者は必ずPD連合会に入会することになっていきます。現在会員数は約3千名で、会員から徴収する会費で会は運営され専従者もいます。

中国の主催団体は中国電視芸術家協会すなわち中国テレビ芸術家協会です。中国はすべて国営放送ですから、テレビ芸術家(＝制作者)はすべて国家公務員ということになります。フォーラムの運営にあたるのは従って芸術家協会の役員らです。公務員の定年前の人たちです。私たち日本・放送人の会は、個人の自主的加盟による団体です。会員の数も結成当初から二百数十名です。韓・中との違いは歴然としています。これまで運営の中心になっていたのは30名の幹事(現理事)でした。

日本・放送人の会は、NHK(公共放送)と民放、制作会社の出身者、所属者によって成り立っています。日韓中テレビ制作者フォーラムの日本側の受け皿として放送人の会が妥当とされたのは、

日本で唯一、NHK、民放、制作会社を横断する制作者の団体だったからです。制作現場に続発した不祥事に危機感を持ったOBたちが立ちあげたのがわれら放送人の会ですから、規模においても経済的基盤においても他の2国とは大きく違うのです。

#### 来年の日本開催の課題は…

ことし、一般社団法人になったのを機に、放送人の会は、入会資格を「放送文化に関心を持つ者」というふうに広くその裾を広げました。さらに賛助会員制度を設けました。幸いにも民間放送連盟が賛助会員第1号になってくれました。

それもこれも、韓・中に負けないよう人材的、経済的基盤を充実させたいという思いからでもあります。

この10月から、新会員勧誘プロジェクトが発足し、早くも続々と新会員に入会頂いております。来年の日韓中テレビ制作者フォーラムには、多くの新会員の皆さんが参加してくれることを私は期待しております。

来年の日韓中制作者フォーラムは、私たち日本・放送人の会が、新たな段階へステップアップするための重要な大会となります。会員の皆さん、そして新しく会員になれる皆さん、来年の日本開催の日韓中テレビ制作者フォーラム成功のために力を出し合いましょ。

# 第13回 日韓中テレビ制作者フォーラム 中国・無錫大会

期間 2013年10月14日(月)～17日(木)

場所 中国・無錫広電传媒センター

(無錫テレビ局内)

宿舎 無錫大飯店

参加者 各国約35人

作品テーマ 「旅・情け、幸せな夢」

## 大会日程

### 第1日目 14日(月)

15時～ 16時 到着

16時～ 18時 組織委員会会議

18時～ 20時 歓迎晩餐会・無錫グランドホテル1階豪華ホール

20時～ 21時 作品鑑賞・討論

21時～ 22時 無錫放送メディアセンタープレゼンテーション

22時～ 23時 ヨンルーム

日本ドラマ「とんぼ」 説明・飯田和幸(TBSテレビドラマ制作部)

### 第2日目 15日(火)

9時～ 9時40分 開幕式

9時40分～ 10時 無錫放送メディアセンター1階広場

10時～ 10時50分 記念写真撮影

10時50分～ 11時 作品鑑賞・討論

11時～ 12時 無錫放送メディアセンタープレゼンテーション

12時～ 13時 ヨンルーム

韓国ドラマ「学校2013」 説明・李民洪(KBSテレビプロデューサー)

13時～ 14時 昼食

14時～ 15時 各国テレビ現状の報告

15時～ 16時 中国芸術研究員テレビ研究所長「新しい環境での中国ドラマの発展について」

16時～ 17時 佳史 テレビ神奈川編成局長「日本の独立放送局」

17時～ 18時 金敏植 MBCドラマプロデューサー「2013年韓国テレビの新傾向」

18時～ 19時 30分 作品鑑賞・討論 中国ドラマ「北京青年」 説明・趙玉剛(国家1級監督)

19時～ 20時 日本ドラマ「希望の翼」 説明・関佳史(tvk編成局長)

20時～ 21時 18時～ 19時 晩餐

### 第3日目 16日(水)

9時～ 10時 2組に分かれて作品鑑賞・討論

《ドキュメンタリー》

中国作品「1972年、あの頃を探す」 説明・王天林(無錫放送グループ特集番組監督)

日本作品「東北の冬」 説明・伊藤純(NHKエンタープライズ・シニア・エクゼクティブ・プロデューサー)

韓国作品「勉強する人間」 説明・鄭賢護(KBS企画制作部)

《バラエティー》

中国作品「郷との約束」 説明・肖東坡(中国中央電視台第7チャンネル プロデューサー、司会者)

日本作品「YOUは何しに日本へ」 説明・村上徹夫(テレビ東京制作局)

韓国作品「お父さんどこへ行くの?」 説明・姜弓(文化テレビ局芸能部プロデューサー)

12時～ 13時 昼食

13時～ 14時 2組に分かれて作品鑑賞・討論

《ドキュメンタリー》

中国作品「徒歩で墨脱へ」 説明・周朝永(中央電視台4チャンネル)

《バラエティー》

韓国作品「一定額所得者にとってベターライフの秘訣」 説明・許康日(SBS制作本社プロデューサー)

15時～ 16時 各ジャンルの総合的な報告

司会・中町綾子

報告 ドラマ・王占海

ドキュメンタリー・河野尚行

### 第4日目 17日(木)

16時～ 17時 閉幕式 表彰式

17時～ 18時 晩餐

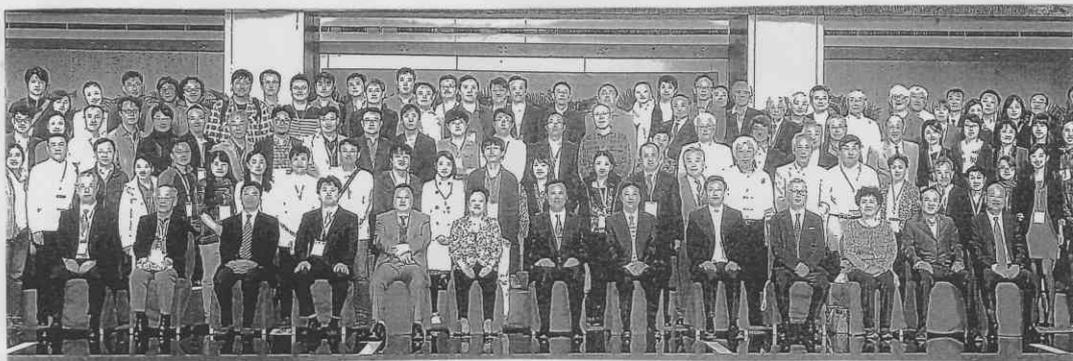
晩餐のあと自由に交流(無錫グランドホテル喫茶店)

18時～ 19時 昼食

19時～ 20時 霊山勝境参観

20時～ 21時 昼食(霊山の精進料理)

21時～ 22時 帰国



# 参加者の

# 感想・報告

深めるべき論点

伊藤純

今回のフォーラムには「新日本風土記・東北の冬」の制作者として参加した。興味深かったことのひとつは、この番組に限らず、予算や人員・制作スケジュールについての質問が相次いだ点。中国・韓国の制作者が日夜何に悩まされ、何と格闘しているのかが伺われた。

一方、食い足りなかったのは、番組のテーマや演出など中身についての意見交換である。たとえば「東北の冬」については、このような「たんたんドキュメンタリー」が、中国や韓国の視聴者に届くものなのか、さらに、3国の間で、無名の生活者のドキュメンタリーを共同制作していく可能性がありうるのかについて知りたかったと思う。総じて、全体スケジュールの中で視聴する番組の数が多すぎたことと、議事の進行の中で、深めるべき論点が設定しきれなかったことが惜しまれる。各国の番組はそれぞれ面白く刺激的だった。たまたまなのかもしれないが、日中韓それぞれの「今」の空気がにじみ出ていたような気もする。「北緯30度中国行」の、「どうしてそこまで頑張れるの?」と思わせるほどの前のめりのエネルギー、韓国のドラマやドキ

ュメンタリーに横溢していたゆとりと遊び心、そして、これこそ偶然かもしれないが「東北の冬」「どんび」「希望の翼」に漂っていた「渋さ」あるいは「枯淡の味わい」。

もしかしたら「旅・情・夢」という言葉から喚起される世界観の違いにも、今回3国で論すべきテーマがあったかもしれない。

いずれにしても、ふだんは味わうことのできない貴重な時間を過させていただき、皆様、ありがとうございました。

(NHKエンタープライズ)

\*\*\*\*\*

井上佳子

今回、フォーラムに参加して、改めて決意したことを記したい。とても卑近な話で恐縮なのだが。

いくつかの番組を視聴する中、制作者のプレゼンで制作費が明かされた。今回に限ったことではないが羨望の思いが湧き上がって来る。同じ尺の番組で、一桁も制作費が違うのだ。ため息をつきながら話を聞いていると、視野に中崎清菜さんの背中が入った。中崎さんは、私が番組を作り始めた頃には既に地元を舞台に数々の名作を生み出していた。もう随分以前から、私の目標とするディレクターだ。いつか中崎さんが言った言葉が蘇った。「私たちは雑草のように、そこら辺を這いつくばって素材を探し、執念深く追い続けることが大事。当時私は深く納得し、密かに雑草ジャーナリズムと名づけ、以来自分の拠り所とし

てきたものだ。今でも中崎さんは見事にその意思を貫き、素晴らしい作品をつくり続けておられる。

しかし修行の足りない私は、師匠である村上雅通さんにもそれとなく水を向けてしまっ

た。

「制作費、やっぱりえらく違いますよね……」

「ははは……金のないローカルは知恵で勝負するんだ!」

振り返りもせず、そんな分かりきった世迷いごとを背中の一蹴されてしまった。

そうだった。足元にはこんなにもたくさん

の宝物がある。宝物は何度も何度も掘ること

ができる。深く深く、掘り続け磨き続けること

で、それらのテーマは、普遍的な輝きを増し続けるのだ。

(熊本放送)

\*\*\*\*\*

川喜田尚

刺激的な1週間だった。初めにお世話にな

った皆様に心からお礼を申しあげたい。

初参加の印象は、各国の思惑には温度差が

あるということ。文化交流、相互理解の

日本「ビジネスチャンス」の韓国、日韓のい

いとこを取りながら自国の「プレゼンス」

もアピールしたい中国(新華社もフォーラム

開催を海外に発信)。そもそもスタンスの違い

の認識から話は始まるのだから、日本の若い

制作者にももっと参加し刺激を受けてもらい

たい。

中韓からのドラマは若者問題を真正面から

捉えた作品として衝撃的であり、海外への展開を強く意識していた。また韓中のフォー

マント販売も既に実現するなど他国の動きは機敏だ。

t v kの参加番組「希望の翼」については、ドキュメンタリードラマという手法がフォー

ラムではとても新鮮に受け止められた。

帰国後、大学生とこの番組を鑑賞する機会を得たが、こういった民間交流が政治に左右

されず続いていることに素直に驚いていた。また日韓史への認識がこのドラマでかなり変わったという感想が多く、共同制作のKBS

で放送されていないことの意味についても、日韓関係を考える現実的な教材となった。

多面的に近現代史を考える機会の提供は、放送メディアにこそ求められるのではないだろうか。

最後にフォーラムから逸れるが、日本の番組が中国各地で違法配信されている現実を目

の当たりにした。上海の日本人によると、2万円程度でチューナーを購入するとNHK、

東阪の民放各局や大手有料放送が見放題になるという仕組み。

今後、番組・フォーマット販売、共同制作などの需要と機会はアジアで飛躍的に増えるだろうが権利環境の整備も急務である。

\*\*\*\*\* (放送批評懇談会)

\*\*\*\*\*

\*\*\*\*\*

\*\*\*\*\*

\*\*\*\*\*

\*\*\*\*\*

\*\*\*\*\*

\*\*\*\*\*

\*\*\*\*\*

\*\*\*\*\*

\*\*\*\*\*

のドキュメンタリードラマ「希望の翼」あの時、ぼくらは13歳だった」(テレビ神奈川・KBS共同制作)。

原作者の二人、寒河江正氏、羅逸星氏は1945年、北朝鮮の中学の同級生として出会い、友情を育むが終戦で離別。長じて天文学者となった羅氏は忘れ難い思い出を胸に、寒河江氏との消息を探し41年ぶりに劇的な再会を果たす。日本植民地時代、禁止の朝鮮語を喋ったことで羅氏は咎められる。寒河江氏は「朝鮮人が朝鮮語を話して何が悪い?」と庇った。羅氏が寒河江氏を探す理由が明らかになる。再会後、二人は寒河江氏が所属する大

学OBの合唱団のソウル公演を表現する。音楽を通じて民間での日韓文化交流が現在も続いている、という話がベースになっている。作品鑑賞後の討論会で、この作品が未だ韓国で放送されていないことを知らされて驚く。その要因として韓国側から、素晴らしいドラマなのだが、韓国の有名俳優が起用されていないことやセリフは日本語が多用され正しい韓国語が使われていない点などが指摘された。そこで、総合監督大山勝美さんの会報に掲載された「希望の翼」制作始末記を確かめてみると、制作にはいくつもの壁があり、まず内容が固まらず三転三転した脚本。時間切れになったキャストイングなど。日本側は計画性を、韓国側はケンチョナヨ(大丈夫)精神で

ぎりぎり決めていくという制作気質の違いがあり、現場は相手手こずった様子が克明に書かれている。知名度はなくてもドキュメンタリードラマということもあって、実力のある人

の適役主義で臨む決断をはじめ、多くの困難を乗り越えればかりの大山さんの執念で乗り切ったことが窺われるのだ。

折から、クールジャパン体制の先兵としてコンテンツの海外展開への期待が高まる中で、お互いが相互理解につとめ、吹き替えなどの工夫や修正が施されて、この意義ある日韓共同制作による労作がKBSで放送されることを切に願う。

今回、最も印象的だったのは、これまでこの制作者フォーラムを牽引してきた中国芸術協会の王占海さんが、閉会式の挨拶を「我々はこの会議の発展に尽力された先輩の人たち、大山さん、故牛山(純二)さんから受けた恩恵を忘れてはならない。お蔭で3カ国の友情が深まりました」という内容で締め括ったことだ。肝銘は胸に刻まれ、ひととき強まった。

無錫での全日程を終えて感じたことは、自分がどんな歴史に織り込まれているかの問いかけを惜しむことなく、過去を感じ直し、現在を位置づけ直し、未来を選び直す。そして謙虚になって、他国の人々といかに歴史認識を共有するかの視点を念頭に置く必要があると思った。(会員)

## 豊かな都市での暖かい交流

### 隈部 紀生

上海から次々に現れる高層マンション群を眺めながら中国東部沿岸部の豊かさを実感した。無錫はその中でも街の再開発が盛んで、

豊かさの指標では、北京や上海に近いという。大会会場になった無錫メディアセンターは2011年に完成した19階建てのビルを中心にしたビル群だ。7階のニュースフロアではメモリーカードで収録した映像を編集し、LANでスタジオなどに送る。開幕式で使われたスクリーンは高さ16メートル、幅31メートルのLED発光式。一瞬4Kと驚いたが、画素数はハイビジョンの75パーセントだった。

無錫には日本企業と提携した工場も多い。日中韓の外交関係がギクシャクしている中でこのような都市で大会を開催した、中国側の暖かい配慮を感じた。

大会では日本のドラマ「希望の翼」について、韓国や中国の受け取り方が気になったが両国とも「感動した」という発言があつて、ほつとした。また中国のドキュメンタリー「1972年、あの頃を探す」では、米中国交回復の年に無錫を訪れて写真を撮ったアメリカ人を招いて街の変貌を描いていた。作品の完成度はいまひとつだったが、中国が外国との交流を描いた作品として関心を呼んだ。韓国からはドラマとドキュメンタリーで現代の教育問題を取り上げた作品が参加し、つくり方に疑問はあつたが、伝統的な教育の行き詰まりをグローバルにとらえようとする視点がよかつた。

各国のテレビ事情の報告では、中国はドラマが1年に1万5千本あまり作られるが、放送されるのは半分ぐらしかなく、視聴率を奪い合っているという。また韓国では韓流ド

ラマが類似のストーリーが多くなり、地上波テレビは政府の規制が強くなって社会批判が弱っていると報告された。韓国のドラマプロデューサーは日韓中ともテレビドラマのポータルネットワークの時代かとも表現した。韓中両国とも若い人たちがテレビを見ずにインターネットでドラマやニュースを見ていると言い、若い人たちをどう引きつけるか考えなければならぬと話していた。

慶州大会、無錫大会では韓中両国は、難しい情勢の中で日本に対して行き届いた配慮をしてくれた。来年の日本大会ではわれわれが心のこもった配慮をしてお返しする番である。特に韓国の代表が指摘した日本の若い制作者にもっと参加してもらって交流したいという希望に対してははっきりした回答を示さなければならぬ。(会員)

## 中国そしてロシアへの旅

### 小池 勝次郎

中国への旅は、久しぶりである。上海虹橋空港からフォーラム開催地無錫へのバス移動中、整備された高速道路から広がる中国の大地を眺めながら、かつて訪ねた思い出の地と巡り会った人々の姿が蘇ってきた。

中国を最初に訪ねたのは、1985年(昭和60年)春の中国東北部(旧満州)への取材行である。中国人の父と日本人の母との間に生まれたバレリーナ真田霞(中国名・劉霞飛)の数奇な運命と残留孤児の問題を追跡記録した

「父と娘の祖国」バレリーナ劉麗飛の旅路。そして1992年(平成4年)夏、山口淑子(李香蘭)さんに上海に同行していただき劇団四季とともに北京・長春(旧新邑)等を旅しながら取材し、スパイ罪で死刑判決寸前の李香蘭を救った友人リユーバさんを旧ソ連に探した「李香蘭47年目の事実」満州そしてロシア」が思い起こされる。

父が、時折語ってくれた関東軍駐屯時代の戦地満州、そして敗戦後抑留された極寒の地シベリアでの苦難の日々の実話は私の脳裏から離れることなく、これら作品企画の原点となっている。

戦争という昭和の時代を生き、父と日本人の軌跡を求めて、1989年(昭和64年)から1992年にかけて、ペレストロイカで激動する秘密のベールに包まれたソ連邦を大横断し記録した「感動そして発見!ソ連横断4万キロ」(激動編) (3部作)。この作品は、共産主義巨大帝国の崩壊と東西冷戦の終焉にめぐり合うという現代史の目撃者となることが出来た。

あれから4半世紀、私は再びロシアへの旅を始めようとしている。

テレビ特別番組(白鷗大学・BS日テレ共同企画)として、あのソ連邦と一緒に取材したかつての仲間達(NTV後輩)と来年1年をかけて変貌著しいロシアを旅し記録する。そして今一度、情報が国境を越えてソ連邦を崩壊していった時代背景と、日本とロシアの今を見つめてみたいと考えている。(公頁)

\*\*\*\*\*

## 夜空に映える極彩色のシルエツト

河野尚行

ホテルでの歓迎の夕食後、外に出て開会式会場に向かう。前方にネオンが瞬き、華やかに輪郭を夜空に描き出す建物が現れた。これが会場になる無錫放送局だった。フジテレビの社屋をモダンにシンプルにしたような建物に近づいて行くと、正面玄関のガラス越しに見たこともない巨大スクリーンが出現、中日・韓アレビフォーラムを歓迎するらしい映像が映されている。

今回のフォーラムでも最も刺激的だったのは中国、韓国の番組や、そこでの議論ではなく、この真新しい無錫放送局だったかもしれないスタジオ見学もする。メインのニューススタジオは、5人は座れるキヤスターテーブルが240度回転する。背景を副調、スクリーン、インタビュールームと、変えることができる。編集室は20台近くのパソコン編集機が並んでいるが、ニュースの修羅場の時間ではなかったせい、人影はまばらで、机の上には紙切れひとつなく、部屋全体にもチリひとつ落ちてはいない。副調の機材も編集システムもすべて中国製だと強調された。続いて居室、ここも人影はまばらで、壁には様々な形の視聴率が張られている。ニュースの視聴率である。案内してくれた副局長は、ニュースの視聴率は担当者の給料にも跳ね返るといふ。社員数は2000人というが、私たちは延べ3日間、朝、昼、晩と無錫放送局に入りましたが、静寂そのものであった。日本の放送局

の得体的にれない人種などには誰一人として出会わない。これでテレビ7チャンネル、ラジオ6チャンネルの放送局かと疑いを持つが、ホテルに帰ってチェックすると放送はちゃんと出ている。無錫放送局グループは、傘下にアニメーション制作会社など14の関連団体を持ち、新聞やホテルも経営する大企業である。その全体の経営者であり、無錫放送局長でもあるスポーツ刈りの50代の会長は、中国一級の芸術家でもあり、水墨画と書を良くする。もちろん、れっきとした共産党員である。その芸術を大成した分厚く重い書物を帰りに頂いてしまった。

公開用の1200人収容するホールは別棟にあり、ここで10グループが競演するエンターテイメント番組を拝見した。その中で、額が禿げ上がり、小太りの模さん演ずる形態模写が印象深かった。濃いカーキ色の背広がたちまち人民服に早変わり、陳毅、周恩来、毛沢東、江沢民、等のものまねが始まる。ユ一モラスで周恩来以外はよく似ている。毛沢東は天安門で片手を上げるあの宣言だ。会場からも笑い拍手が起る。……これを表現の自由というのだろうか。以上、とおり一片の印象記である。(公頁)

\*\*\*\*\*

## 感想・課題

崎元利樹

今年6月、放送文化基金の専務理事に就任

し、今回初めて日本・韓国・中国の3か国による「制作者フォーラム」に参加させて頂きました。中国には、かつて1990年に北京でアジア大会が開催された際に、取材陣の一員として訪れたことがありましたが、それから4半世紀近く、場所こそ違いましたが、中国の変容ぶりには目を見張るものがありました。特に、無錫は中国でも生活水準が高い地域だという事で、「世界第2位の経済大国になった中国」を実感できた気がしています。

さて、フォーラムについての感想ですが、3か国から持ち寄られた番組には、当然のことですが、それぞれのお国柄が感じられました。質疑では、通訳を介してのやりとりという事もあり、なかなか話が噛み合わないところもあったように思いますが、時間制限も加味すると、一定の限界があるのは止むを得ないでしょう。それでも作品を通して浮かび上がるものを感じ取ることは出来ました。放送制作の底流には、国民性や歴史・文化論が横たわっており、同一の視点でお互いを論じることが出来ませんが、それぞれの背景を理解した上で、相互の放送文化を見つめ合い、共同制作等に取り組んで行く事は重要だと思います。フォーラムでの収穫を、どうすれば放送に関わる人達で広く共有化することが出来るのか? 課題はありますが、フォーラムには極めて大きな意義があると思います。貴重な経験をさせて頂き有難うございました。

\*\*\*\*\*  
(放送文化基金)

膝付き合わせて話す

## 寒河江 正

日本と韓国、日本と中国、共に領土問題をめぐって関係は悪化の様相を帯びて改善の兆しは見られない。そんな状況の中で行われた、日・中・韓3ヶ国放送人のフォーラムは、今まで参加した(私は8回)集いの雰囲気とはやや違った感じがした。

これまでは思ひ出多い意欲作品を見せてくれた韓国、中国、今回は出展作品の一部に精彩を欠き、鑑賞するのがいささか辛かった。どの制作者もこの会で見る異国の作品にある驚きと発見を期待するものだ。会の歴史を大きく3期に分けると、5年目頃の会場で聞いた韓・中放送人の言葉、「日本の作品に学ぶところが多い」8年目、日本の放送人「韓・中作品の飛躍的發展に驚き」そして今年は…。私の感想は出展作品選考の見なおしをお願いしたい。(これまでもテーマに沿って慎重に選ばれていたが)特に内容鑑賞に大事な字幕スパーへの無神経さ、同時通訳にも問題ありだ。私案だが、鑑賞する作品の本数を減らす。例えば、主催国の地元は3、参加国はそれぞれ2、3日間で鑑賞は7つに絞る。

局長がレポートした。更にtvk開局40周年記念ドラマ「希望の翼、あの時、ぼくらは13歳だった」、大山勝美監督の映像も放映され、この2つに会場から大きな賛辞を頂いた。開局以来tvkに在職し現在も番組づくりを続けている私も素直に嬉しかった。

来年は横浜が舞台になる。(公言)

\*\*\*\*\*

「希望の翼」「孔子の後裔」…

## 下崎 寛

中国無錫のフォーラムに参加しての感想です。

今回の作品では、日本の参加作品「希望の翼」あの時、ぼくらは13歳だった」と韓国の参加作品「孔子の後裔」何で東アジア人は一所懸命に勉強するの?」について興味を持った。「希望の翼」については、戦中の韓国における日本の中学校の日本人と韓国人との同級生交流を起点に、戦後の再会をドキュメンタリーとしてまとめられた作品であった。戦中では日本と韓国の微妙な時代背景があり、韓国側の反応について興味があった。韓国側は、抗日部分の表現と日本側からのスタンスについて不満が見られた。そこで驚いたのは、韓国が日本文化をメディアで開放してまだ15年程度しか経っていないことであった。最近の韓国テレビの進出ぶりから意外であり、まだまだ本当の交流は難しいものと思う。

韓国の参加作品「孔子の後裔」については、アメリカのハーバード大学生の視点から、

日中韓の高校生が何故一生懸命に大学受験勉強をするのか?がテーマであった。中国の科挙制度の影響、日中韓の受験勉強を比較分析していた。西洋人であるアメリカ人の切り口で見ると、儒教思想を背景とした東洋人である日中韓の文化の違いがでいたように思う。

毎回、参加させていたいて、思うことは、日中韓の文化慣習の違いは、書籍で検討するよりもドラマやドキュメンタリーの作品で検討することが、本音がでて、より鮮明に違いを理解できると思う。(公言)

\*\*\*\*\*

## 無錫旅情

## 鈴木 嘉一

中国を訪れるのは、瀋陽に行つて以来5年ぶりだった。慕進する機関車のように急激な経済成長が続く中国には、そのつど驚かされることが多く、今回も例外ではなかった。

第13回「日韓中テレビ制作者フォーラム」が開かれた無錫市は上海の空港からバスで2時間半、約650万人の人口を抱える大都市だ。中国の都市の中でも経済発展が著しく、500社もの日系企業が進出しているという。無錫の変化を知るうえで、このフォーラムで上映された無錫テレビ制作の「1972年、あの頃を探す」が興味深かった。72年、ニクソン米大統領が歴史的な中国訪問を果たした1か月後、アメリカの親中派学生らが訪中し、無錫にも立ち寄った。学生の1人が街の様子を撮った多くの写真を基にして、無錫の今昔を対比するドキュメンタリーだった。

大学教授になったこの男性は無錫を再訪し、「40年前は街中に田んぼがあった。昔とは全然違い、別の星に行ったようだ」と語る。

3日目の夜、中心部に近い南長街を歩いた。運河沿いに建ち並ぶ明朝時代の古い家屋などは、モダンなカフェやバーなどの店舗に改装され、若者や観光客でにぎわっていた。数年前から官民挙げて街の活性化に取り組み、新たな観光スポットになったと聞く。「古い革袋に新しい酒を盛る」という都市再開発事業に、現代中国の都市文化の一端を垣間見た。

最終日は、97年に落成した霊山大仏に案内され、巨大な大仏をはじめ規模の大きさに感服した。中国は何でも、やるのが大きい。

一方、交通マナーは相変わらず悪かった。中心部では車も人も完全に信号を無視し、私たちが横断歩道を渡るのは大変だった。帰りのバスの車中からは、高速道路を徒歩で横切る男たちを見かけ、唖然とさせられた。

無錫も中国全体も日々、変貌し続ける。尾形大作が「上海蘇州と汽車に乗り太湖のほとり無錫の街へ…」と歌った「無錫旅情」に出てくる太湖だけは、昔も今も変わらないように見えたが、その水質はどうなのだろう。

\*\*\*\*\*

オン・ザ・ロード

鈴木 典之

上海空港から無錫までの所要2時間半の道中、バスで隣り合わせになった通訳の鮑正勝

君と会話を楽しんだ。

鮑(ボオ) 君は無錫大学日本語学科の3年生、勉強家とみえて日本語は達者で、話が早く通じ、質問にも素直に何でも答えてくれる。安徽省(無錫市のある江蘇省の隣)の農家の息子で、無錫に進出している日本企業に就職し、開発営業を担当するのが目標という。安徽省から無錫へのコースは、あこがれの一つだが、無錫の市民権獲得はむずかしく、従って外国系企業(進出は1000社超、うち日本からは500社)への就職も条件的に厳しい、と心細げだ。在学中に日本へ留学すると有利で、日本の2つの国立大学(地方の)とは提携制度があるので、4年生になったら半年間留学したい、しかし内陸農民の親に負担をかけるのがつらい、と悩んでいる。朴訥利発な好青年なので大いに同情した。

それだけに、国内体制批判は慎重に避ける彼の口ぶりが強く印象に残る。

驚いたのは、彼が「半沢直樹」にくわしいことで、聞けば、中国でも放送の10時間後にはインターネット(「風行」のサービスとか)で、無料で視聴でき、利用者は多いのだそうだ。大学でも、50人のクラス中半分近くは毎回「半沢」を観ていて、先生も講義で話題にするほどの人気。鮑君もすっかりはまっています、殊に最終回の「常務士下座」のシーンにはシビレましたという。「日本の連ドラや評判の番組は、遅くとも放送の2週間後までにはたいてい観られますよ。」(公頁)

\*\*\*\*\*

初めてフォーラムに参加して

### 関佳史

7月に入会させていただきました関佳史と申します。よろしくお願ひ致します。大山勝美さんに弊社の40周年記念ドラマ「希望の翼」あの時、ぼくらは13歳だった」の総合監修をやっていた縁で、会に入れていただきました。フォーラムに実際行ってみると、「放送人の会」は大変なことを継続していると感じます。中国、韓国との団体の在り方の違いなどを超えて、国際交流を続ける情熱に感心しました。今回は、「独立局」をテーマに報告を行い、ドラマ「希望の翼」の上映があり、大役を2つ頂戴しました。「希望の翼」の討論では、韓国、中国から評価をいただき、かつ、忌憚のない意見を聞くことができ、大きな収穫がありました。この番組は、韓国KBSとの共同制作ですが、KBSでの放送はされていません。KBSで「希望の翼」が放送しにくい理由を、韓国人の視点から説明をされました。我々日本人には気づかないものの見方、考え方を示され、相互理解の難しさを実感しました。大山さんにこうしてお話を直接聞いていただき良かったです。体調不良で参加できず残念です。終了後1日の日程を追加し、弊社と提携している上海電子台株主である吉本興業の上海支社、横浜市上海事務所などの訪問ができました。無錫市は相

模原市と上海市は横浜市と姉妹都市関係にあります。両電視台の幹部に挨拶ができ、今後の仕事を繋げることができればと思います。(テレビ神奈川 役員待遇編成局長・公頁)

\*\*\*\*\*

日韓中関係とフォーラム

### 辻本 昌早

今回の中国無錫大会はなんとと言っても「希望の翼」あの時、僕らは13歳だった」が日中韓制作者フォーラム出品作品だったことが大きな成果でした。

領土問題など微妙な時期の上映だけに、頭をよめるのは2年前の蘇州大会、「ゴキブリ事件」のようにボイコットされたらどうしよう・・・と心配もしつつ「この作品を出さなかつたら放送人の会の存在意義が問われる」とも思いで・・・選考された放送人の会の志に、深く敬意を表します。

ドキドキしながら視聴し上映が終わると、今度は中国や韓国の制作者の感想が気になります。しかし案ずるより産むが易し、若輩者の心配はよそに作品の志を皆さんが高く評価して下さって、制作に携わった方々に熱いエールがありました。

なにより壇上に立った寒河江さんの「いつまでもいがみ合っていない方がいい、平和の方向へ前進すべき!」という言葉に感動しました。

この作品は、大山先生が命を削って制作されたと聞きましたし、また寒河江さんも、か

なりの手弁当をされた、と伺いました。これこそ「作りたい、作らねば」で前に突き進む、制作者の鏡。今回のフォーラムでまたしても、大先輩から制作者魂を教わりました。私は田舎の淡々ドキュメンタリーしか作れませんが、今回もまた大いに刺激を受け、学べたことを感謝しています。(公頁)

\*\*\*\*\*

「希望の翼」のこと

\*\*\*\*\*

### 中崎 清栄

今から3年前も中国が会場でした。

私どもの「田舎のコンビニ」をテーマ番組に選んでいただき、胸を弾ませて韓国作品の「ゴキブリ」を見ながら上映を待っていたところ、急に不穏な空気が漂いました。韓国の人達が「中国が勝手にカットした!」とソロソロと会場を出て行ったのです。

「何が起った?」事情が分からないまま振り返ると会場の多くは空席。

「田舎のコンビニ」の上映が始まりましたが人も少なく見ている人として、気もそぞろです。国情が異なる3つの国が集う難しさが出たと感じました。

竹島問題も煙る今年、関係者は「いぶん」苦労されたと思いますが、幸い問題も起こらず、無錫テレビの建物や開会式のスクリーンの大大きさに驚き、中国放送局の「力」を感じていました。

そんな大きな力を誇る中国の方々が、番組視聴後の意見交換で必ず聞くのが「製作費は

いくら? 視聴率は?」不思議です。

今回、「希望の翼」あの時僕らは13歳だった」が上映作品に選定されて、本当に良かったと思っ

中国や韓国の方々もこのドラマをきちんと捉え、発言していただけない、できる事ならこのドラマについて3か国が存分に意見交換できたら、理解が深まるいい機会になっただろうと、残念です。

こうして3か国の製作者が集う場は、地方局で制作する者には大変な刺激、視野がぐんと広がる気がします。

また、選んでいただけるような番組を目指して田舎で頑張ろう!と。(会員)

\*\*\*\*\*

## 無錫大会に参加して

長沼 士朗

今年の日韓中テレビ制作者フォーラムは、10月の14日から17日まで、尾形大作の歌謡曲「無錫旅情」などで親しまれている中国江蘇州の州都、無錫市で開かれた。

上海から西へ120キロあまり、大湖など自然環境に恵まれた人口6百万人余りの経済都市であり、日本からもソニー、東芝、シャープなど家電メーカーを中心に多くの企業が進出しており、特に対日感情も悪くない都市であった。

中国には古来12という数字で物事が一巡する言伝えがあるが、今回のフォーラムは13

回目、二巡目のスタートの年に当たり、その意味ではすっかり定着した大会という印象が強い。

参加者は日本から38名、韓国から35名、地元中国からは45名ほどの放送関係者が集まり、ここ数年はほぼ同じような規模のフォーラムとなった。

今年のテーマは「旅、情け、幸せな夢」と、大づかみなものであったが、このテーマをもとに3国からドラマ、ドキュメンタリー作品が各一本ずつ、エンターテインメントとノンテーマ作品が1本ずつの、計4作品が出品された。

日本からは、ドラマがTBSの「とんび」、ドキュメンタリーがNHKの「新日本風土記・東北の冬」、それにテレビ東京のバラエティ番組「Youは何しに日本へ」、首都圏の神奈川テレビが制作したドラマ「希望の翼」の4作品が参加した。

参加者が泊まる宿舎は街の中心にある無錫大飯店、今回はめずらしく全員個室が用意され、フォーラムの会場はそこから歩いて7、8分の無錫テレビ放送会館内の施設が使われ、プレゼンテーションルームやデジタル映画館などで、作品の視聴や討論、各国テレビの現状報告などが行われた。

今回私は、日本の作品のほか、主に中国と韓国のドラマとドキュメンタリー作品を視聴したが、中国と韓国の作品については、昨年までと違い、今年は特に強く心に残る作品が無かったのが残念であった。字幕による翻訳の配慮が足りない面などもあったが、特にド

ラマは10回シリーズの第1回ということで、登場人物の紹介に終わってしまい、ドラマとしての葛藤が弱かったことも、影響していたように思われる。

これに対して日本の作品は、ドラマもドキュメンタリーもテーマや構成がしっかりしており、中国や韓国の参加者にも好評であったという印象が強い。

特に、日本の植民地であった朝鮮で、同じ中学校で学んだ日本と朝鮮の二人の少年の友情が、41年後、日本と韓国の音楽の友好交流にまで発展した姿を描いた作品「希望の翼」は、戦争という野蛮な時代にも人間的愛情を失わなかった人間の心が爽やかに描かれており、韓中の参加者にも好感を持って迎えられるのが嬉しかった。

しかし、このドラマは韓国のKBSの協力も得て作られた作品だが、また韓国では放送されていないという。そのあたりを、親しい韓国の知人にこっそり聞いてみたが、やはり今日の東アジアの国際情勢の中で、この作品を人間的な視点だけで捉えようとしても、やはりそこにはいろいろ複雑な問題があるということであった。

私は、今回のフォーラムは多少体調を崩していたこともあり、夜の自由な時間などに、中国や韓国の参加者と尖閣列島や竹島の問題について、放送人の仲間として自由に意見を交わすことができなかつたことを、非常に残念に思う。

このフォーラムは直接政治的な問題を話し合う場所ではないとしても、13年間続けてき

た文化的交流の中で、放送人の立場としてこうした問題に一切触れられないとすれば、むしろこのフォーラムがまだ儀礼的な交流の場を脱しきれないという印象をぬぐい去ることができない。

二巡目がスタートして2年目、来年の横浜大会は、もう一歩突っ込んで、日韓中3国の放送人が今共通の問題として認識できるようなテーマや参加作品の工夫について、これから開催国としてしっかり検討していくべきだという印象を強く抱いた。(会員)

\*\*\*\*\*

## そして横浜...

林 健嗣

「来年の横浜開催実現に向けて」普段電話とメールでしか打ち合わせすることができない奈良の山田さん、東京の長沼さん、渡辺さんと札幌の林が、中国・無錫で顔を突き合わせて話すこと1時間、とにかくそれぞれやることをやるために、横浜開催へ向け事業スケジュールを立案することになった。

中国や韓国の開催は、国がかり、組織がかりであるのに対し、日本は「白髪集団」(韓国PD連合会による通称)のボランティアであることを開催の秋になると思い知らされる、それが4年前からの中国開催大会だ。「中国の規模に感嘆されてはいけない」というのがフォーラム担当リーダー山田さんの言葉だ。しかし開会式の長さ30分はある一枚物の巨大ビジョンの前での開会式、お台場のCXと汐留

のNTVのビルを合成した無錫テレビ台のビル、日本語を通じる無錫ホテル：「来年はどうするの」と問われているようで落ち着かない。

そんな気持ちの前に登場した中国作品と無錫テレビ台副台長の趙波 (Zhao Bo) 氏の言葉が、印象的だった。ドキュメンタリー「1972年、あの頃を探す」中国作品は、カメラをもつことができなかつた文革時代に米国人が撮影した無錫の貴重な写真に写った人々と農村の変貌と急激な発展の歴史を米国人の目を通して描こうとしたものだった。もの足り無さが残るのは、歴史や体制への批評を持ってない中国作品の限界だろう。趙 (Zhao) 氏に

「無錫の発展は中国を代表するものだろう」と主催地への配慮の言葉を投げかけて、意外な言葉が返ってきたのが印象的であった。「無錫は確かに発展したが、都市に入った豊かな農民に今も支えられている」「蘇州のように歴史と文化を守っている」とは言いがたい」その言葉の裏にあるものを読む。

「共感と異論」のダイナミズムを互いに体感しようとするのがフォーラムだ。相互の作品鑑賞とともに、日本を代表する国際都市・横浜の今をどう見てもらうか。来年初、みなさん、協力を期待します。

HPのブログを見てください

### 前川英樹

今回のフォーラムの最大の意味は「希望の

翼くあのとときぼくらは、13歳だった」(テレビ神奈川 tvk) が上映されたことだ。

「極論すれば、これに尽きる」ということ、そしてその論点について、「放送人の会 HP 放送人ブログ・スペシャル」に少しまとめたものを書いた。そちらを「一読ください。個人的な感想としては、今回の中国ホスピタリティはとても良かったと思った。(公頁)

### 新鮮な体験

### 村上徹夫

今年の初夏、お話を頂き「YOUは何しに日本へ？」を携え出席させて頂きました。このような体験は初めてで自分の作った番組を海外のテレビ制作者の方々に見てもらうのはとても新鮮でした。有り難いことに皆さんからはお褒めの言葉を頂き、さらにこの番組を頑張っているという気を引き締めさせて頂きました。

他国の方が持ち寄って下さった作品に関しては大きな刺激を感じることはありませんでしたが、それぞれの国の作りの違いは良く解りました。それ以上に番組の制作手法や予算などを細かく尋ねられてこられる姿にテレビビジネスに対しての食欲さ、国境を越えたマーケットでコンテンツを利用してゆくことへの意識の高さを感じそこは大いに学ぶことができました。

また、今回のフォーラムへの参加は日本に

おけるテレビ制作の諸先輩方や仲間たちと直接お会いし、意見交換ができる点が素晴らしいと思われました。我々テレビ業界は、局同士、制作会社同士が交流する場が中々ありません。局を越えて、世代を越えて、国境を越えてテレビについて語り合うのは非常に貴重な体験です。

そういった意味では、もともと日本も若い世代が参加できるようなシステムが出来ると良いのではないかと感じました。テレビの未来を担う方々の参加が増えて行けばより発展的な会になるはずですが、今後とも私のみならず、テレビ東京の若い世代も含め何卒よろしくお願い致します。(テレビ東京)

### 突き付けられた課題

### 村上雅通

作品から伝わってくるものが、視聴する環境によって、こうも違うのかを今回のフォーラムで実感した。その作品とは「希望の翼」。2か月ほど前にDVDで視聴し感動した。今回、番組の尺は短くなっていたが、初見以上の感動があった。「国、民族間の潤滑油」を標榜し、フォーラムを立ち上げた当時の志しが蘇ってきたのかもしれない。見終わった後、熱いものが込み上げてきた。原作の寒河江さん、演出の大山さんのメッセージは明確だった。それは、時代、国、民族を超越した人々との絆の普遍だ。

しかし、作品の余韻に浸っている時間は少

なかった。当初からの計画である韓国での放送が実現しない理由の一つに、「主人公の父親である日本人医師が『いい人間』に描かれているからではないか」と、韓国からの参加者が指摘したからだ。植民地時代に『いい日本人』がいることを拒む風潮が、今でも韓国にあるという。この発言で、私は現実を引き戻された。このところ韓国からは、竹島、慰安婦だけでなく、福島の原発報道にも国家主義が見え隠れする。一方、日本のメディアにも『国家』を意識した報道が増えたように感じる。

「希望の翼」は、こうしたメディアの現状を考え直すきっかけであったはずだ。中国からの参加者からは「感動した」という率直な感想も出されたが、フォーラムが最初に目指した『潤滑油』になるには、まだまだ多くのハードルがあることを突き付けられた思いが残った。難しい課題はあるが、そろそろ禁断のテーマに切り込む時期に来ているのではないだろうか。(公頁)

### いくつかの課題

### 渡辺 純史

共同事業を長く継続させるためには、あえて、失敗は小さく、成功は大きくアナウンスすることだと聞いたことがある。しかし、今回の無錫大会について、成功を大きくアナウンスできるか、私には自信はない。むしろ課題が残った(見つけた)大会であったように思う。

今回のフォーラム、議論は概して不活発であった。議論の中心は深まらず、かみ合いも不十分であった。テーマが漠然として、議論を喚起する作品が少なかったのか、時間が足らなかつたのか、主催者に、議論をしよう、させようとの意欲に欠けたのか。昨年日本と韓国の若い制作者たちが、実りある議論を展開しただけに、日本側としては、不満が残ったのは事実だ。いや、これは私だけの受け取り方かもしれないが。

以下、まじめな話をする。

フォーラムの目的は、東アジア3国の番組制作に係る人たちの意見交換を通じ、共通理解を深め、共同制作を含む協力関係を促進しようとするものだが、近年、その目的のとりえ方に3国間の不調が目立ってきたように思う。

不調は、各国の組織団体の違いによるものともいえる。日本の組織団体は、放送現場OBを含む幅広い放送人の集団、放送人の会、放送に関する概括的で研究的な成果を受け取るという傾向が強い。韓国は現役プロデューサー組織、韓国PD連合であることから、研究的、実践的な成果にこだわる。中国はテレビ局やプロダクションの統括団体、電子芸術家協会であるところから、実利的な成果を期待しているように見える。出品試写される番組の制作者間の議論は、実践的であつてしかるべきで、昨年から、ドラマ、ドキュメンタリー、エンターテインメントの3つのセクションに分かれての試写、討論となつたのもうなずけるが、参加者がすべての番組の試写に

参加する方式をやめたことは、番組制作論を超え、大きな視点のメディア論的論考を加え、この会議の果実を広く視聴者世論にまで及ぼしたいと考える日本側としては、不満の残ることとなつた。

では、今後どうしたらよいのか。それにはいくつかの工夫、努力が必要となる。会議時間と限界がある中で、一つは、同時に試写しなくても参加者が討議までにするすべての番組を見られる環境を作ることである。期間中常時長時間上映を可能とする部屋を設置することや、現在は終了時に配られる出品作品のDVDを事前に配布する等の工夫をした上で、全体の問題を議論する場を確保することだ。

もう一つは、参加者の構成に、各国とも若干の工夫を加えることである。その意味では、中国の参加者の構成は近年バランスがとれてきてように思うが、むしろ工夫が必要なのは韓国と日本。韓国には年長の賢者を、日本には年少の猛者を、である。韓国の事情、現在に至る経緯を知らないわけではないが、もう少し広く寛容な対応をお願いしたいし、日本においては、若い制作者の派遣にもっと努力をすべきだろう。これは私自身の反省でもあるが、出品番組担当者の派遣依頼も、これまではおざなりで、都合が悪ければ代理の人、また代理の人と、すべて放送局に丸投げ。局でも、お願いされたからだけ行ってくれよと、現場に丸投げである。作品選考は、派遣する人間も念頭において選ぶべきだし、場合によっては作品より人による選考だつてあり

うる。もちろん、出品作品とは関係なく、テーマにふさわしい若い番組制作者は、一本釣りしてでも参加を促すべきである。三つ目は、当たり前なことだが、議論の内容に関して、議論の筋道程度は予測し、準備して大会に望む必要があるということである。今回、日韓で議論の焦点となるべきドラマも、韓国での放送の是非という、出口にあるべきテーマから入り、そこで終わってしまったことも残念であった。昨年の慶州大会における、テレビは歴史にどう向き合うかをめぐって、日本の塩田氏と韓国のチャン氏との前夜の打ち合わせが、フォーラムでの実りある議論を産んだのは、日本側に内容に関しての周到な準備があつたからだ。それを忘れた今年の我々日本側の怠慢は、大いに反省すべきである。

来年のフォーラムは日本の担当、横浜開催を予定する。内容テーマ、運営の実際、そして資金面、今のところ、全く目算の立たない状況だ。今出来ることは、今大会の総括と反省だけである。ここまで書いてきたのは、実行委員間の反省会のような内容で恐縮だが、書かれた内容は実現させなければならぬまい。これらは、来年のフォーラムを担当する我々への強い「縛り」と考え、あえて決意表明として書いた。

共同事業を長く継続させるだけでなく大きく発展させるためには、あえて失敗を大きく、成功を小さくアナウンスすることも必要である。

(公員)

第16回 放送人の世界

鴨下信一 ～人と作品～

聞き手 今野勉

12月6日(金) 18:30～21:00  
12月7日(土) 14:00～19:00

会場・上智大学

6日・10号館 講堂

7日・12号館 102教室

上映番組

6日

「岸辺のアルバム」初回と最終回

脚本・山田太一 出演・八千草薫 杉浦直樹

竹脇無我、中田喜子

「私たちの忠告」

7日

「想い出づくり」

脚本・山田太一 出演・森昌子、古手川祐子

「ふぞろいの林檎たち」

脚本・山田太一 出演・中井貴一、時任三郎

手塚理美、石原真理子

「高校教師」

脚本・野島伸司 出演・真田広之、桜井幸子、赤井英和

「植木等ショー・オーケストラがやってくる」

出演・植木等、東京交響楽団

入場無料

お誘い合わせて多数、来場のほどお願い致します

致します

## 気になる日本語・外来語

武本宏一

「習性となる」とはよく言ったものだ。

昔、ラジオ東京に入社した直後の2年間、ラジオ運行課という部署に配属され、毎日朝から晩までモニター業務に明け暮れた私は、今でもラジオやテレビでのちよつとした言い間違いを耳にすると、気になって仕方がない。先日、NHKラジオでニュースを聴いていたら、男性アナがこんなアナウンスをするのが耳に入った。

「この問題は、クニナイガイで、大きな関心を集めています。」

前後の文脈は忘れてしまったが、気になったのはその「クニナイガイ」という発音だ。これは漢字で書けば勿論「国内外」という言葉だろう。

ところで、「国内外」は、昔はNHKでも、私が居たTBSでも、クニナイガイとは言わず、クニナイガイと言っていたはずだ。

確かに、国内はクニナイだし、国外はクニナイである。またナイガイ（内外）というのも立派な熟語だ。しかし国内外なんていう熟語はないと思う。だからこそ昔は「国の内外」という意味で分かり易く「クニナイガイ」と発音していた筈である。

モニターなんかではないが、私はついダイヤルをまわして、NHKの視聴者センターに問い合わせしてしまった。

「NHKは一体いつから、クニナイガイと言わずに、クニナイガイと発音しているのですか？」

丁寧に受けてくれた女性担当者が、「しばらくお待ちください。調べてご返事します」とのこと。ややあつて、自宅の電話が鳴った。

「アナウンス室に問い合わせたところ、ずっと以前から、クニナイガイと言っているそうです。」

ふーん、そうかなあ……。どうしても腑に落ちない。俺の記憶がいか……。さて、数日後、テレビのニュースを何気なく見ていたら、年輩の大臣がインタビューに答えてなんとこう喋っているではないか。

「それは、クニナイガイの例に照らしてもですね、……」

たしかに大臣は、クニナイガイとは言わず、クニナイガイと発音した。しかも、文部大臣なのだ、この人は！

私はやつと、胸のつかえが取れた気がした。そうなんだ。私くらいの年輩の人なら誰だって、クニナイガイなんだ。

習性となったついでにもう一つ。一流ホテルのレストランでの偽表示や、大銀行の不融資のニュースで必ず出てくる「コンプライアンス」なる外国語。ありや、一体何なのだ。カステラとかピーナツとか、もう日本語になった外来語ならともかく、一般の人がまだその意味を莫としてつかめない英語をそのまま使って、「コンプライアンス」なんてやめてほしい。

最近放送局にもコンプライアンス本部とかなんとか設置されているらしいが、立派な日本語があるじゃないですか。「法令遵守」。

いや、もっと直截に表現するならああした事件は、お客との間の「信義」の問題にほかならない。

せめてラジオでは、日本人の心に直接響く正しい日本語を使ってほしいものだ。

## 土居まさるの深夜放送のバイオニア

田中秋夫

昨年の1月、TBSラジオの日曜日午後の番組「爆笑問題の日曜サンデー」の制作担当者から私に電話があった。用件は「番組で土居まさるの特集をやりたい。エピソードを聞かせてほしい。」との話だった。土居まさる君とは文化放送の同期入社した仲であり事前収録を条件に快諾した。爆笑問題の若い二人がほぼ父親の世代にあたる彼に興味を持っていくれたことが嬉しかったからである。

土居まさる(本名 平川巖彦)は1940年8月 静岡県生まれ。立教大学経済学部を経て1964年に文化放送に入社。新人アナ研修時代に彼の評価は高く、スポーツアナとしての将来を期待されていた。しかし同時に、彼は学生時代にカントリー&ウェスタンバンドの司会者として活躍した経験があり、音楽番組にも興味を持っていた。彼は努力家で、常にラジオを聞いて人気があ

る出演者たちのトークを研究していた。特に熱心に聞いていた番組がニッポン放送の夜帯で放送していた「青島幸男のまだ宵のくち」だった。番組を聞きながら彼は青島さんの口調を真似ていた。「芸事は盗むことから始まる」と言われるが、土居まさるのしゃべり口調は正にそこから始まっている。

入社した翌年1965年の秋に土居まさるの番組「真夜中のリクエストコーナー」(深夜15分帯番組)がスタートする。「土居」のマイクネームは立教大学の後輩だった巨人軍土井正三選手から拝借している。番組のスポンサーは予備校でリスナーターゲットが高校生だった。そこで求められたのは「話のわかる兄貴的しゃべり手」だった。この番組は単なる音楽のリクエストに留まらず、葉書に書かれていたコント、クイズ、人生相談、などが面白いと話題になった。その点でその後ブームとなる深夜放送の手法を先取りしていた。「あーよっ！」という威勢のいい掛け声で番組がスタートし、「やあやあ君起きてるかい？今夜もビヤーツといこう！」といった感覚的な表現が若者の心を捉えて、急速にファンが広がっていった。ところがこの土居まさるのトークがアナウンス部内で大問題になった。当時の上司をはじめ先輩たちが「アナウンサーとしてあのようなしゃべり方は許されない。」と批判し始めたのだ。当時のアナウンス部では開局以来「NHK的アナウンスメントを基本とする」とされていた。またアナウンス部内の人間関係は徒弟制度的に上下関係の秩序が徹底していたが、土居はその先輩たちから連日

徹底的に批判された。

しかし土居は負けなかった。若いリスナーたちから圧倒的な人気を集めたという自信が彼を支えていた。また担当ディレクターからのバックアップもあってその口調を頑として変えなかった。その結果、上司や先輩たちは振り上げた拳を下ろさざるを得なかった。やがて彼はアナウンス部から新設されたパーソナリティ室に異動となり、その第1号となった。1969年6月に深夜放送「セイヤング」がスタート。土居まさる、みのもんだ、落合恵子達がDJとなり、人気を博した。その後LFの「オールナイトニッポン」TBSの「バック・イン・ミュージック」と共に3局が人気を競った結果、「深夜放送チーム」と言われる社会現象を巻き起こすまでになったが、土居まさるこそがそのパイオニア的存在だったと言えよう。その後、彼は独立し、フリーとしてテレビ界でも活躍したが、残念ながら1999年1月18日、すい頭部がんにより永眠。58歳の若さだった。

### 第40回放送人句会

◇平成25年9月11日(水)

◇於：赤坂・表屋

◇選者：星野高士

◇出席：伊藤規郎、上村晔蛙、荻野慶人、尾崎麻衣子、豊田まつり、中島文博、新村もとを、橋本きよし、林備後、藤森いずみ、森治美、西川阿舟  
◇不在投句：鶴橋康夫、山泉

ぼん太

【兼題：月一切、蟋蟀、展覧会、バレ飯】

【星野高士特選】

バレめしの秋刀魚食う奴けなす奴  
ときれてはこほろぎの声我を責む  
大小屋のコトリとせせず月昇る  
ひと振りの鎌におおろぎ頑固な目  
廃船の舷に鳴くちちろ虫  
ちちろ鳴く息呑むほどの近きより  
蟋蟀よ俺も閻魔にじきに会う  
足元に大波寄する良夜かな  
阿舟

【星野高士選】

名月や蘇州を過ぎて無錫まで  
庭で捕りひと夜の籠のつづれさせ  
秋深く明治は遠き漱石展  
朝帰り沈み遅れし月ひとつ  
満天の星ふるはせて鳴くちちろ  
月待てば早や献杯の始まりぬ  
月の出や一瞬海の色を濃く  
椅子一つ庭に出されて夕月夜  
こほろぎをわが友とする夜もありや  
雲低くなりて茶亭の昼ちちろ  
その人と良夜わかたむすべもなく  
展覧の平家納経秋闌くる  
月明り父のぬない子誹られて  
船出してお台場沖に月の宴  
まつり  
客人の酔うて帰りぬ夕月夜  
秋扇音なくあふく展覧会  
大寺にぬつと出できし盆の月  
康夫

こほろぎの鳴く音を追って路迷ふ  
満月やサヨナラE・Tかぐや姫  
望月の満ち欠け知らぬ覇者ありて  
名月や五輪遙かの八十路坂  
蟋蟀や映画ステージ下は土  
湯上りの裸身にまとも月明り  
ムンク展終り異国の秋深き  
秋爽の窓すこし開け土偶展  
三人の日本画展に菊匂う  
三日月の光に浮かぶ巷かな  
ゴッホ展帰路に仰ぐやいわし雲  
都庁から駅西口へ無月かな  
蟋蟀や門扉は音のせぬやうに  
コホロギが独り鳴いているピアノ陰  
バレ飯を半ばでやめて夜仕事へ  
上汐となりし蓮河の夕月夜  
胸元の狭いブラウス月の形  
こほろぎや終電を待つ駅舎の灯  
月に吠ゆる人のありけり地震の浜  
なみ

【全員互選】

バレ飯や秋刀魚塩辛怪気炎  
ちちろ止むコック文吉肉叩き  
月一つ窓に残して友の留守  
月天心兄は機上の人となり  
こほろぎの声音まねする窓辺かな  
盆の月亡き父の下駄履いてみる  
月今宵影絵とも見しビルの街  
被災地の月にたはむる猿や猪や  
蟋蟀の鳴き止みてフト刻止まる  
新蕎麦やバレ飯なればそそくさと  
まつり  
阿舟

【兼題：月一切、蟋蟀、展覧会、バレ飯】

早逝の友の自画像月背負ひ  
バレ飯はバレ飯として星月夜  
満月や大きく曲るゆりかもめ  
秋すだれ風にだらりと月を切る  
月白の照らす背中の手術跡  
夕月夜人の気配と風少し  
バレ飯や屋台で独り西瓜喰ふ  
耳の奥にこほろぎの鳴く年となり  
十六夜の月昨夜よりも円きかな  
落し物三夜つづきの月こよひ  
蟋蟀の相撲あたりで治めたし  
草千里一人の広さに月昇る  
まつり  
阿舟

【選者吟】

星野 高士  
だんぐくと近づく汽笛つづれさせ  
硝子絵の展覧会を見て無月  
バレ飯や月の明りを頼りとし  
こほろぎのこゑ土間に伸び闇を去り  
花街の二階の窓に月明り  
蟋蟀や窓に向けたる夜の顔

### 第41回放送人句会

◇平成25年11月13日(水)

◇於：赤坂・表屋

◇出席：伊藤規郎、荻野慶人、豊田まつり、中島文博、新村もとを、林備後、堀川とんこ、森治美、西川阿舟(9人)  
◇不在投句：鶴橋康夫、山泉ぼん太  
◇兼題：小春、新海苔、石路の花、NG

黄昏にいつか溶け入る石路の花 治美  
 小春日の野を切り裂いて多摩急行 阿舟  
 小春日やあの世この世の際に立つ ほん太  
 帰ると言い帰るなど言う小春かな 康夫  
 NGでないこと少し牡丹焚く まつり  
 いい顔でいたいと思ふ小春日は 康夫  
 小春日や村にコンビニ来る話 ほん太  
 逢へずとも靴ひとつの旅小春 もとを  
 ひねもすを海は鈍色石路の花 備後  
 二年坂三年坂を行く小春 備後  
 NGを告げて小雪の止むを待つ ほん太  
 新海苔をひらりひらりと炙りけり 備後  
 NGの声のくくもる夜寒かな 備後  
 石路咲くや一村包む怒濤音 ほん太  
 石路の茎は豪雨に直立す ほん太  
 小春日やちよつと寄り道して帰る 備後  
 小春日やちよつと寄り道して帰る 備後  
 新海苔やあつたか飯に香り立つ 文博  
 覗き見し崖下の秘事石路の花 文博  
 喧噪の街にあふる小春かな 治美  
 いさかひし君と我とに小春日や 治美  
 生き方にNGはなし今朝の冬 治美  
 NGに床の冬薔薇うつむきぬ 阿舟  
 特養へあるじ引越す石路の花 慶人  
 NGの理由は判らず神無月 備後  
 又ひとり黄泉路に消えし石路の花 ほん太  
 この路地に小便無用石路の花 視郎  
 持ち主が不明の隣家石路の花 康夫  
 小春空ピアスの穴をあけようか まつり  
 小春日やミルクに千切るパンの耳 ほん太  
 落ちていた蠅がビビビと飛ぶ小春 康夫

縄のれんくくり小春や向島 もとを  
 鉄火旨し新海苔でこそ巻くべけれ 阿舟  
 露天湯の目の前にあり石路の花 阿舟  
 国産とラベルに表示新海苔来 まつり  
 噓してまたNGをくり返し 視郎  
 小春と一枚脱ぎし女客 ほん太  
 石路一輪女主人の足袋白し ほん太  
 牙え牙えと廻るは己がNG集 慶人  
 石路の花夕開に消え残る ほん太  
 ゆけむりの人肌撫でる小六月 ほん太  
 新海苔の潮の香のまま叩かるる もとを

**次回放送人句会**

◇平成26年1月8日(水) 18時頃から、19時  
 投句締切 ◇赤坂・麦屋  
 ◇兼題・初風、小豆粥、伊勢海老、持ち道具  
 ◇特別選者・星野高士氏

**新入会員紹介**

**石橋信司(日活)**

79年日活(株)入社。94年から衛星放送  
 を通じ日本映画を中心とするチャンネル事業  
 を担当。CS放送成人番組倫理委員会理事長。  
 CS映画放送(株)代表取締役。日活(株)  
 常務取締役衛星メディア事業部長。衛星放送  
 協会理事。

**金沢宏次(元NHK)**

74年NHK入局。00年ドラマ番組部長。  
 09年からユニオン映画(株)代表取締役社長。  
 イタリア賞、文化庁芸術祭大賞、放送文化基  
 金賞本賞、ABU賞ほか受賞多数。現在AT  
 P副理事長。

**川喜田 尚(元CBC)**

80年CBC入社。ラジオ編成、制作、社長  
 秘書、ニューヨーク支局長など歴任。87年「ハ  
 ーモニカラソソデー」(ラジオ)で民放連賞

優秀賞受賞。開局時にCS。JIC、Jsk  
 yBを経て現在(株)ジェイ・スポーツ。大

正大学表現学部特命教授。放送批評懇談会理  
 事、月刊「GALAXY」副編集長。著書に「で  
 きる広告52のヒント」「メディアスポーツへ  
 の招待」

**中尾幸男(元CAL)**

69年電通入社。ラジオテレビ企画室からキ  
 ヤステイング局。99年CAL出向。「水戸黄  
 門」チーフプロデューサー。18年CAL社長。  
 20年全日本テレビ番組製作社連盟理事長。  
 24年(株)IFCTV JAPAN 代表取  
 締役(株)テレパック ゼネラルプロデュ  
 ーサー。

**仁藤雅夫(スカイパーフェクト)**

81年三井造船入社。89年日本通信衛星株  
 式会社入社。97年日本デジタル放送サービス  
 (株)取締役。06年(株)スカイパーフェク  
 ト・コミュニケーションズ代表取締役社長。  
 10年スカパーJ SAT取締役執行役員副社  
 長。現在に至る。

**和崎信哉(元NHK)**

68年NHK入局。教養番組チーフディレク  
 ター、チーフプロデューサーを経て社会情報  
 番組部長。デジタル放送推進局長、理事など  
 を歴任。05年(社)DPA専務理事。06年  
 (株)WOWW会長。07年から社長に就任。  
 現在に至る。

いつか溶け入る  
 石路の花  
 治美



# いろはに時代劇

その七

菅野高至

そして、93年4月2日金曜日の夜7時30分から、「清左衛門残日録」の第1回『昏ルルニ未ダ遠シ』の放送を迎える。この日、私はデスクと二人、視聴者からの電話番をしながら、ドラマ部の自席近くで放送を見る。

放送当日の放送前、放送中、直後、視聴者の疑問・要望の電話には、直接、番組制作者が対応する。いつものことだ。放送前には放送回数と時間の問い合わせが数件ある。

放送が始まって5、6分過ぎ、男性から「前の『腕に覚えあり』とイメージが違ふ、なんか面白く無いぞ」と、「不興の声が耳元で響く。「まだ始まったばかりなので、ぜひ見続けて頂きたい！ 見終わればこのドラマの意図をご理解頂けます」と、ひたすら嘆願。終わると、「明かりが暗すぎて見えないぞ」と怒りの声（男性）。「若干、暗い嫌いはありますが、清左衛門が生きた時代相を描こうとしました。どうぞ、ご理解して頂き、見続けて頂きたい」と、これまたひたすら嘆願する。

口が裂けても、「あなたが見ているテレビが悪いのでは？」とは、言い返せない。放送が終わって程なく、私は写真家（男性）だと断った電話が入る。

「明かり、構図ともに良い。光と陰がよく表されている。こういう時代劇を待っていた」と。これは正直嬉しかった。とりわけ、演出チーフの村上佑二と照明チーフの渡辺恒一、カメラチーフの吉野照久が喜んだ。村上さん

の狙いがお客様に分かって貰えたのだ。放送後は、批判的な声は無かったが、お一人、高齢の女性の方が言葉の誤用を指摘して来た。

「大変良いドラマだったが、言葉で気になったものがひとつある。『逐電』は『ちくでん』ではなく、『ちくてん』です」と。穏やかな物言いだ。『ちくてん』は若い方には分かりにくいと考えて、『ちくでん』としました。こうした言葉の揺らぎは私どもが、今、時代劇を作る時の課題の一つだと思っています。……お電話ありがとつとございました。若い視聴者層に向け、確信犯で「ちくでん」としたのだが、助兵衛根性を見透かされたようで、少しづつが悪かった。最後の「ありがとつとございました」がうまく言えなかった……。

第1回の放送が終わると、電話対応の内容をまとめて、B5判1枚の「放送反響メモ」を作る。当時はワープロで書いた。それに、新聞各紙のラテ欄の紹介記事を添付して、編成ほか関係各部署に配る。

メモ作りの合間を縫って、脚本家の竹山さんにお礼の電話をする。確か、キャスト4人のバランスが思いのほかうまく填まったことを話したと思う。

ここで、キャストイングの話をする。かたせさんや推したのは竹山さんだった。私が出した幾人かの候補者の中から、地味で辛気くさい話が多いから、浦井の女将さんは

派手にしようよ、と彼女を強く推した。NHKを見る女性客に映画「極妻」のかたせさんが受け入れられるか否か、自信は無かったが、女性専科の脚本家に賭けてみることにした。それと、かたせさんの、極妻以外の静の芝居を是非とも見たかった。

竹山さんをつい、「女性専科」と書いたが、ことのほか女優さんに、うけがいい脚本家だった。女優さんに気持ち良く芝居をさせるつぼを心得ていて、そういうホンを書いてくる。断つとくが、彼は決して男が書けないわけが無い。男も、書けます。

出来た嫁・里江役の南果歩さんは、「橋の上においでよ」（87年、作：田向正健、演出：小林信二）というNHK大阪のドラマを見て、惚れ直した女優である。里江を演じた時は、29歳になっていたが、実年齢より遙かに若く清楚であった。どちらかというと私は、演出の時は濃い女優さんとの作品が多かったので、果歩ちゃんに憧れるのだと思う。

或る日の清左衛門のスタジオだった。モニター前で、ヌタツキキャストと一緒に本番チエックを見ていたら、演出のOKが出てから、彼女は私のそばに来て、「免なさい。私、赤ちゃんだから、同じ芝居が出来ないの、毎回違うの」と、済まなそうに言う。それが又、可愛らしくて、再び惚れ直す。彼女の言い分は、気持ちで演じるから、やってみないと分からない、演出のリズム通りには演じられませんが、ということである。

果歩ちゃんには苦しい思いもある。藤沢周平原作の「秘太刀馬の骨」（05年）に出演し

て頂いた時だった。原作では、気鬱を病んだ妻の役なのだが、プロデューサーの私が日和った結果、にこやかなよくてきた妻に設定を変えたため、放送後に「原作に忠実な形で、もう一度遣ってみたい」と言われてしまう。

大衆娯楽時代劇で出来る範囲を自ら狭めることは無かったと、悔いが残った。清左衛門の相棒、佐伯熊太役の財津一郎さんは、93年3月放送の土曜ドラマ「私が愛したウルトラセブン前編」（作：市川森一）で、田谷プロのプロデューサー役を演じて貰った。若い出演者が多い群像劇の中に埋もれないように、濃い役者さんを選んだのだ。

財津さんは、コメディ「てなもんや三度笠」（62年）68年、日曜夜6時〜6時30分、65年の夏、「非ッ常に、キビシッツ!!」のギヤグと奇声で、突然レギュラー（蛇口一角）の座を獲得したコメディアンである。私は浪人生だったが、夢中になってテレビにかじりついて見ていた。私には、伝説の人である。

地味な企画の時こそ、色物系の役者を置く……財津さんは先輩の教え通りのキャストイングである。だが、浮かないだろうかと不安がよぎる。言い出して後には引けない。演出の村上も気に入っている。祈る想いで2月8日の顔合わせと本読みを迎える。

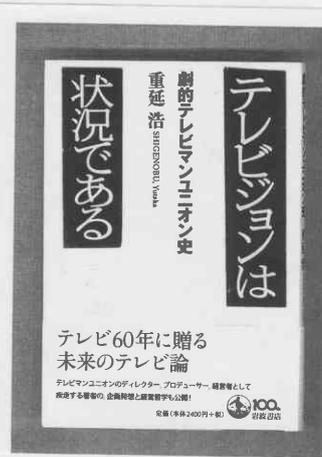
本読みが始まる。絶妙な4人の組み合わせが面白い。後は、ホン次第だと確信した。この4人のハーモニーに割って入るのが、第1回の敵役・金井奥之助を演じた佐藤慶さんだった。（つづく）

## 新刊紹介

テレビジョンは状況である

『劇的テレビマンユニオン史』

重延 浩書



のように残るのは団結を叫ぶ書にしては皮肉だ。

争点は政治と文化の相克だが、和田が提起した「放送の時代」への疑問は大衆文化をリードする「構造の時代」の諸矛盾に引き継がれ、「お前はただの現在に過ぎない」テレビにながが可能か（萩元晴彦 村木良彦 今野勉 田畑書店 68年）でオフ・ステーションの論理を組織の境界から組み直す道を模索した。ステーションの管理体質にあきたらない肉感的な境界の感性を「テレビの青春」（今野勉 N T T出版 09年）はビビッドに描いた。果たして「越境」は可能なのか。

変容するテレビを作品史に限定して時系列的に解明する書は多いが、テレビジョンを想像力とマネージメントの地平から論じた画期的な書が現れた。

重延浩はテレビ60年を「放送の時代」が「構造の時代」を経て「状況の時代」に至り、課題を投げかけていると分析し、構想する。私なりに思い当たるフシがある。手元に3冊の書がある。

まず「燃えるアンテナ」放送の現場と未来像（編集・放送労働組合協議会 七曜社 63年）。ラジオや映画、舞台などの先行文化を吸収し放送の自立をステーション・オリエンテッドの立場から放送労働者を規定する第1回放送研究会の議事録をまとめた本だが、その中で和田勉が終始会場で論争を挑む記述があり、異議ありの論跡だけが血のしたたり

自分史に国境の存在を絶えず意識して生きざるを得ない人々が少数ながら存在した。島国の日本ではごくまれな意識だが、樺太に生れ、幼くしてソビエト進攻という国境の悲劇を体験した少年がいた。後年、ある宇宙飛行士は「宇宙から国境線は見えなかった」と言った。その言葉に隣接する国家が一本の線をめぐって互いに唾み合い、多くの犠牲者を出した残酷の日々を少年のおぼろげな記憶が重ね合わせる。

毛利衛の感動に「私の心を震わせていた」と共感する重延浩にとってテレビジョンは無数に内在する「国境」意識への挑戦の場であり、同時に組織創造の場でもある。

報道、スポーツ、教養、教育、ドキュメンタリー、ドラマとテレビはまたら文化の「国境線」を引き、越境を許さない。国家もまた放送免許条件に番組の配分を重視する。国家が番組の「国境」を設ける。変ではないか。

テレビマンユニオンは例えば「アメリカ横断ウルトラクイズ」「世界ふしぎ発見!」「ウルルン滞在記」などのリアリティーショーを創り、重延浩自身も東西に分断された「ベルリン美術館」の映像の再会を図り、アート・ドキュメンタリーを拓き、壁画「秋田の行事」に藤田嗣治とレオナルド・フジタの合体を凝視する。

毛利衛が地球に国境線を見なかったように、われわれのテレビ・モニターにも国境線はない。「オフ・ステーション」表現の下に新しい状況を創造し、直近の未来はテレビ（メディア）、マン（人間）、ユニオン（組織）の総体として、デジタルヒューマニズムを創造すると予感する。熱い本である。

かつての航跡を遡行し、己の立ち位置を再確認する放送人たちや学者、あるいは海図なき時代に出航する若い世代のためにしたためた実践の航海日誌。それは時代を乱反射する文体で読者を知的興奮に誘うのである。

（岩波書店 2400円）

僕が棲んだテレビ箱

上田 信



NHKには「日本賞」のほかに「NHKアジア・フィルム・フェスティバル」と「サングラス/NHK国際映像作家賞」などの放送関連事業があるのはあまり知られていない。前者はモンゴルやベトナム、マレーシア、ウズベキスタンなど、アジアの発展途上国を映画の共同制作を通じて助成。後者は俳優のロバート・レッドフォードが立ち上げたインデペンデント芸術支援組織「サングラス・インスティテュート」と提携したプロジェクトのことである。因みにサングラスとはレッドフォードが主演した名画「明日に向かって撃て!」の主人公の名前からきている。

90年代に発足したNHKBS2波のコンテンツ確保を目的とした2つのプロジェクトの戦略要員として定年まで関わった著者が生涯一捕手的なドラマ制作の道をあきらめ、傍系業務で体験した「もう一つのNHK」を軽妙な自分史の枠組みから描いたユニークな書。各国を渡り歩き、異国の映画・テレビ人たちとの交流を通じて43人もの新人監督を育て、彼らの「作品」群や二つのプロジェクトの成果を紹介、さまざまなエピソードに問い見える体験談が読ませる。「日韓中フォーラム」の交流に参考になりそうな示唆的な話題が多い。

（万来社 1400円）

記・松尾羊一

【あ】青木裕子 赤井朱美 秋田完 秋山豊寛 雨宮望 新井和子 【い】池田正之 石井彰 石井ふく子 石高健次 石橋健司 石橋冠 磯野恭子 磯村健二 市岡康子 市村元 一色伸夫 伊藤雅浩 井上佳子 井上良介 今井義典 岩澤敏 【う】上村忠 碓井広義 臼杵敬子 歌田勝彦 宇野昭 【え】江口展之 遠藤利男 遠藤ふき子 遠藤雅充 【お】大蔵雄之助 太多亮 太田敬雄 太田昌宏 大西康司 大西文一郎 大原れいこ 大山勝美 大類啓 岡弘道 岡田晋吉 緒方陽一 岡村黎明 小河原正巳 沖野暁 荻野慶人 小田久栄門 織田晃之祐 【か】加賀美幸子 各務幸 片岡敬司 勝部領樹 葛城哲郎 加藤滋紀 加藤節男 加藤山 加藤義人 金澤宏次 金沢敏子 金子登起世 兼歳正英 金平茂紀 加納孝夫 鎌内啓子 上安平冽子 鴨下信一 川喜多尚 川口健一 川口幹夫 河村正一 【き】岸田功 北川泰三 北川信 北出晃 北村美憲 北村充史 木村成忠 【く】楠美昌 工藤英博 久保志穂 隈部紀生 【こ】小池勝次郎 河野尚行 児玉久男 後藤和晃 小山幹人 近藤晋 今野勉 【さ】斎藤伸久 斎藤秀夫 斎明寺以玖子 酒井美樹男 寒河江正 坂元良江 桜井均 佐々木彰 佐々木欽三 佐藤年 澤田隆治 沢田隆三 【し】重延浩 重村一 静永純一 志津木敏 四宮康雅 柴田昌平 嶋田親一 清水満 下崎寛 下重暁子 白井博 【す】菅野高至 杉澤福太郎 杉田成道 鈴木昭典 鈴木典之 鈴木道明 鈴木嘉一 須磨章 【せ】関佳史 せんぼんよしこ 【そ】曾根英二 【た】高島秀之 武本宏一 田澤正稔 田中昭男 田中秋夫 田中直人 田中則広 田原茂行 【つ】辻本昌平 露木茂 鶴橋康夫 【と】堂本暁子 戸田桂太 外崎宏司 豊田由紀子 豊原隆太郎 【な】中尾幸男 中崎清栄 中島僚 中田美知子 永田浩三 長沼士朗 永野敏一 中村敦夫 中村克史 中村季恵 中村耕治 中村敏夫 中村英美子 中山和記 並木章 難波秀哉 【に】新村もとを 仁藤雅夫 西ヶ谷秀夫 西川章 二宮文彦 丹羽美之 【の】信井文夫 【は】橋本潔 林健嗣 原由美子 原田令嗣 【ふ】深町幸男 藤井チズ子 藤久ミネ 【ほ】星田良子 堀川とんこう 【ま】前川英樹 松尾羊一 松平定知 松前洋一 松本修 黛りんたろう 【み】三上義智 水上毅 水野憲一 三原治 三村景一 三村千鶴 宮川敏一 三宅恭次 明神正 【む】村上光一 村上雅通 村上佑二 村田亨 【も】諸橋毅一 【や】八木康夫 矢島良彰 藪内広之 山県昭彦 山崎隆保 山崎裕 山路家子 山田尚 山田良明 山根基世 【よ】横山英治 吉澤保 吉永春子 吉村直樹 【わ】和崎信哉 渡辺敏史

羊頭三語

◆戦前のコラム欄「視滴」(毎日新聞)を執筆した主筆、侃堂丸山幹治が部下に「ジャーナリズムの敵は何だ」と、糺したら「権力です」「いや」。別の男は「アカデミズムです」と得意げに答えた。侃堂曰く「それはマンネリズムだ」◆それでは新聞記者と放送人の違いは？「新聞記者は歩きながら考えるが、放送人は振るだけで何も考えない」とヤユされる時代があった◆わたしたちなら「新聞記者は締切り時間中心に動き、24時間動きっぱなしなのが放送人」と答えたい。ラジオだが、かつて「25時の討論会」という題名の深夜番組をプロデュースしたことがある。寺山修司、大島渚に全共闘っぽい竹中芳、斎藤龍鳳などがマイクを奪い合う◆その代り午前零時から翌日朝までの生物睡眠時間は超過勤務となり、勤務表に赤線を引き、青天井の残業代はすべて飲み代に消えた。いまはちがう。残り少ないマンネリ時間を御しかねている。

やんぬるかな ほそを噛みたる

「その昔」(お粗末) 松尾馬笑

編集後記

▼日韓中テレビ制作者フォーラム無錫大会の特集で多くの方に寄稿いただきました。ありがとうございました。いろいろな角度から書かれた原稿が集まり、読むと大会のおよその様子はわかっていただけそうです▼大会に出品さ

れたドラマ「とんび」について確かめると

中国、韓国には「とんびが鷹を生む」という格言はないそうです。また出品作の「YOUは何しに日本へ」に登場したフランスの青年は日本で自転車旅行をするのですが、何と青山と青森を間違えていました。都心の青山と東北の青森、この間違いのオカシサは韓国、中国の人にはわかりません。国際理解はやはり難しいですね◆松尾羊一さんは無錫には不参加で松尾バーあため伊藤バーを深夜開店しました。ルームサービスで取った青島啤酒は1本15元、近所の店で買った老酒は650ccの瓶で8元、ポケット瓶に56度と表示のある茅台酒は5元、こちらを大量に買っておけばよかったですと後悔しましたが、ご厚志を沢山いただき、バー会計は黒字です。黒字の分で上海空港でお菓子を買ひ、事務局へのお土産にしました。ラベルをみると台湾国籍の企業が澳門で生産しているという怪しげなものですがつともおいしいとよろこばれました◆無錫大会は番組相聴が3つに分かれたり、市内観光に行く人少ない人があったりで、カメラマンは到底全部を追い切れません。前回に引き続きテレビ金沢辻本さんに多くの写真を提供していただきました。ありがとうございました◆新入会員の入会申し込みは続々届いているのですが、理事会承認、会費入金の手続きが済んでから会報には掲載します。今号では6人だけの紹介になりました。

◎新会員募集用資料(会報62号の残部)

は残部があります。事務局までご連絡ください。

# 無錫大会 アルバム

第1日 歓迎晚餐会



無錫グランドホテル 芳華ホール



張頌 中国組織委員会委員長

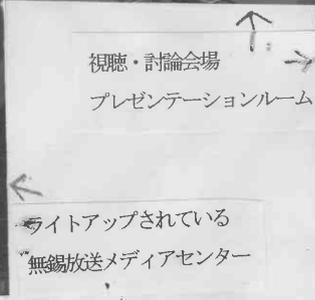


王占海 電視芸術家協会元副秘書長

歓迎の挨拶



啤酒（ビール）で乾杯



所謂伊藤バーである



客席からの発言者たち

「とんび」の制作者  
TBSドラマ制作部飯田和孝氏



「とんび」に見入る人たち



無錫大飯店の窓からの風景。画面中央の橋は京杭州運河にかかる開源大橋。その向こうがビルが林立する市中心部。



司会 中町綾子氏



歓迎の辞



嚴克勤無錫テレビ・総裁



趙化勇中国視協主席



今野勉放送人の会会長

参加の辞



王慧江蘇省  
文連常務副主席



洪鎭幹韓国PD連合会長



原作者寒江正氏



「希望の翼」の視聴と討論の会場。関佳史氏が登壇している



「学校2013」の主演女優  
韓国からの参加者は大騒ぎで迎えた



「学校2013」のP李民洪水氏



会場からの発言者たち



ステージの大画面に映写される  
「有名人風采」の顔



口笛コミック 「小鳥と蜜蜂」



オープニング・ダンス「幸福讃歌」

無錫テレビ局音楽ホールでの  
公開ハラエティー番組



雑技 浙江省曲芸雜技団



二重唱 張露曦、朱少宇



蠟燭を口にくわえての歌唱

第3日

番組の視聴と討論



肖東坡P・司会



王天林P



金敏植 MBCドラマP



関佳史  
テレビ神奈川編成局長



丁亜平  
映画テレビ芸術研究所長



休憩時間のコーヒー



「東北の冬」伊藤純P



「徒歩で墨脱へ」周朝永D



「孔子の後裔〜何で〜」  
懸命勉強するの?」鄭賢謨P



「YOUは何しに日本〜」  
村上徹夫P



社員食堂の厨房 料理は8元〜12元  
紅焼牛肉麵 12元



中国製の新鋭機器が並ぶ



無錫テレビ局舎内見学



総括

宋日準氏

河野尚行氏

范宋叙氏



ジャンル別討論会



中国の組織委員会から日本と韓国の組織委員会へ  
記念品として宜興紫砂壺(高級茶器)が贈られた



表彰式



八百屋



ホテルの近くの商店街



無錫大飯店



高級ハンドバッグ店



ギョウザとラーメンの店



ウサギとニワトリの店



喫茶店 Starbuck



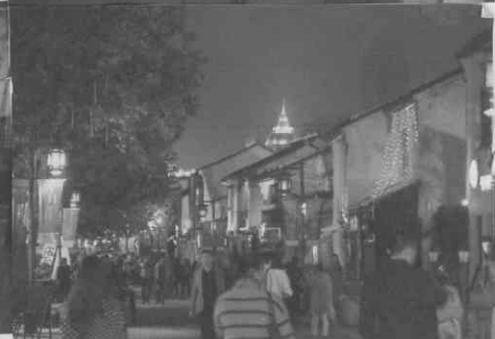
運河にかかる橋



Soul Bar



夜の街で記念撮影



無錫市中心部の繁華街



靈山大仏前での記念撮影



禅寺なので精進料理



靈山の山門



精進料理の給仕人



寺域を走る電動車、遊園地気分だ